

# 平成29年度 東村山市立八坂小学校 第2回学校関係者評価報告書

**学校教育目標**  
 ○健康な子ども ○心ゆたかな子ども ◎よく考える子ども ○進んで実行する子ども

**目指す学校像(ビジョン)**  
 【目指す学校像】 学校が楽しい、明日も来たい  
 【目指す児童・生徒像】 自他を大切に、認め合い高め合いながら、めあてに向けて努力する子ども  
 【目指す教師像】 教育のプロとしての自覚をもち目標達成のために「チーム八坂」として協働する教師

**前年度までの学校経営上の成果と課題**  
 児童の話を聴く力が高まってきている。「書く力」「話し合う力」も研究授業を重ねるごとに育ってきている。生活習慣は定着してきているが、放課後や家庭での過ごし方には依然として課題が残る。教師の指導力向上に努め、個々の考えをもとに、集団解決する思考力・表現力の育成を図るなかで、学ぶことの楽しさを児童が実感できる学校づくりを行っていく。

	具体的方策	第2回評価		課題と次年度以降の対策	第2回学校関係者評価
		努力目標	成果目標		
学力向上	東京ベーシックドリル診断シートで児童の実態を把握し、数値が低い領域を重点的に朝学習で取り組む。	4	3	診断シートは算数科の全領域から出題されており、全ての領域の基礎学力定着には課題が見られた。習熟度別算数授業は分かりやすいと肯定的に答える児童は約93%と多く、意欲的に学習している。朝学習や授業の始め5分間程度の活用、計算検定に加え、放課後等の個別指導にも取り組んだ。今年度の取組は来年度も実施し、基礎学力の定着を目指したい。	読み・書き・計算等の基礎的な学力はとても大切で、反復練習が大事だと考える。計算検定に加え放課後等の個別指導が大きな成果に繋がったと思う。算数習熟度別指導にも効果が認められる。褒めることにより意欲向上につながる。新学習指導要領の柱であるアクティブラーニングの充実を図り、確かな学力の向上に一層努めて欲しい。
	授業や日常の学習を通して、児童の話すこと・聞くことを身に付けさせる。	3.5	4	児童アンケート「日常や授業など、日頃からよく話を聞いて取り組むことができたか」という設問では、93%の児童が肯定的な回答をした。研究授業や日常の取り組みで児童の話すこと・聞くことへの能力の向上や意識の改善ができた。一方、研究を通して聞くことの大切さや話すこととの関係を少しずつ深めてきた。研究成果を日常の指導に生かすよう努める。	聞くことへの取組が93%の児童に肯定的に捉えられたのは評価したい。「話すこと」「聞くこと」は、基礎基本の学力を付けていく上で基盤となる。また、人間関係を構築する上でとても大切である。数秒で聞く姿勢をとることができるようになったのは、大変評価できる。話を聞く姿勢を身に付けさせる方法が分かり易い。ぜひ、次の段階に進んでいただきたい。国語科のみならず全ての教科・領域で意識して取り組んでいくことが大切だと思う。
健全育成	いじめを許さない態度の育成に向けて、言語環境を整え場に合った言葉(ふわふわ言葉等)を使うよう指導する。	3.8	4	1年間を通し、深刻ないじめによる事案は挙げられなかった。学級担任が熱心に対応したり、未然に防止するための指導を行ったりしたことで解決に導かれていた。高学年ではメールやラインのによる書き込みが発覚し、当該児童の保護者も交えてSNSの使い方を指導した。今後もSNSの利用マナーについて家庭に注意喚起を含めて、啓発していきたい。	深刻ないじめによる事案が妥当な範囲内では、いじめ問題に対する指導が行き届いた結果ではないか。「いじめ問題への対応」については、現状いじめ問題が発生しているか否かに関わらず、必ず学校評価項目に載せて、毎回評価していくことが大切である。いじめは、見えないところで、いつでもどこでも発生するという視点を忘れずに取り組んで欲しい。現に日常的に「死ね」等と発言する児童もいる。学校外の要素が強いが、SNSに関し東京SNSノート等を活用しクラスで話し合えるようにしたい。
	どの児童に対しても同じ判断基準で、あいさつや授業規律等について、ほめる時はしっかりとほめ、叱る時はしっかりと叱る。	3.9	4	学校に持ってくるべき学習道具の内容については、学年が上がるにつれて崩れやすくなることもあり、来年度始めに児童向け・保護者向けに文書で知らせていく。通り返りにお辞儀をしたり自分から進んであいさつしたりする姿を見かけたら、大いに認めて賞賛する機会を増やしていきたい。	学年が上がると叱り合いがあるのか挨拶するのが減るように見えたが、普段挨拶を自らしてくれる子がいるのはとても素晴らしいと思う。挨拶は、一朝一夕には身に付かない。家庭も含めて努力していく必要がある。規則とルールを守るのは当たり前。公共のマナーについての考え方は、教職員間で価値観の違いが当然あると思うが、共通理解を図り、共通の判断基準で児童に指導していくことが大切である。児童の承認欲求を満ちし、自己肯定感や向上心を育んでほしい。
健康・体力づくり	いろいろな運動を意欲的に取り組めるよう、外遊びを奨励する。	3.1	4	担任からだけでなく、放送委員会からも毎日外遊びをしようと呼びかけを行った。学校のルールに基づき、各学年が割り当てられた曜日・時間に様々な運動用具を利用して外遊びを楽しむことができた。一方で、割り当て以外の曜日・時間になると、外遊びをする児童の割合が減っていた。さらなる工夫を考えていく。	学校公開で休み時間にグラウンドに駆けていく子供の姿を見てたのもしく感じた。外遊びを通していろいろな運動をすることで新しい発見がある。遊びから社会を学んでほしい。今年度設置した遊び用具や放送委員の呼びかけで外遊びが活性化された。遊び用具の片付けも習慣化されてよいと思う。子供たちに、スポーツに親しみきっかけをつくってあげるための有効な工夫について研究を深めて欲しい。運動が苦手な児童へのフォロー、異なる学年が混ざって遊ぶ機会の設定が望まれこの分野は家庭の部分でありながら学力にも影響が出るところである。「適切な生活リズム」は、子供が望ましい成長を遂げていくために欠かせないものであることを、粘り強く保護者に啓発していくことが大切であると思う。チェックカードに「×」がつくのが嫌で子供が時間を意識するようになった。子ども自身にもなぜ早寝早起き等が大切なのか理解してもらい時間があるとよい。チェックカードは長期休み明けだけでなく定期的に活用してもらいたい。
	早寝早起き、TV視聴時間・ゲームをする時間・家庭学習の時間(学年×10分)等の生活リズムについて指導をする。	2.5	3	早寝早起きチェックカードを活用してもらうことにより、意識して生活しようとする保護者が増えている。2学期は冬休み中のチェックも行った。今後もチェックカード等を活用して適切な生活リズムで生活することの啓発を継続していく。	
保護者・地域との連携	地域の自然や施設、人材等を活用した授業を児童の実態に合わせて積極的に展開する。	3.0	4	教員間でコミュニケーションを取り、昨年度実施した施設の見学やゲストティーチャーを招いての授業を実施することが出来た。普段できないようなことを経験できるとも良い機会となった。学年の担任全員が異動した時に困らないように、引き継ぎを行っていく必要がある。	職場体験や地域に関する活動等の日は、帰宅後すぐに内容を報告してくれる。たくさんの人とかかわることにより視野が広がって考え方にスパイスが加わる。ぜひ続けてほしい。引継ぎは(異動対象の先生だけでなく)マニュアルの作成を。保護者として手伝いにも積極的に参加したい。地域との連携を一層深めるために、先生方も無理のない可能な範囲で地域行事等に参加して、地域の人々と親しくなることが求められる。八坂小の先生方は、この点もよくやっていて大きな成果が上がっていると思う。様々な行事ごとの展示物など、もっと増やすことができればいいのではないかとと思う。
特色ある学校づくり	年11回のレインボー活動を、児童が思いやりの気持ちや連帯感・協調性を育てるように実施する。	4	4	レインボー活動を通して、異学年の児童同士が仲良く交流することができた。6年生は、学校の中心となり、責任をもって様々な活動を企画・運営することができ、最高学年としての自覚を持つことができた。	レインボー活動は子供から話を聞くだけなので、学校公開などで見せてもらえたらと思う。上学年にとって責任感や使命感をもって行動できる場を大切にしたい。また、上学年から受けた優しさや思いやり、リーダーシップをぜひ下学年につなげるような活動にしてほしい。とても良い取り組みなのでこれからもテーマを持ちながら継続してほしい。なぜレインボー活動が大切か、というレインボー活動の意義について、教職員間で常に共通理解を図っていく必要がある。レインボー活動を通して、発達段階に応じて児童にどのような力や態度を育成していくのか、という視点で取り組んで欲しい。その中には、楽しみや遊びの部分もあっていいと思う。「活動あって、学びなし」ということにならないようにしていくことが大切である。